



手

指先の感覚に 托された人の命

「手」の持つ力は、人間の生命を支える。指先の感覚は、人の命を託されている。手は、人間の生命を支える。指先の感覚は、人の命を託されている。手は、人間の生命を支える。指先の感覚は、人の命を託されている。

朝鮮神宮から 中継放送

紀元節奉祝會に JODKの試み

二月十一日、朝鮮神宮から中継放送が行われた。紀元節奉祝會にJODKの試みが注目されている。放送内容は、神宮での儀式と、JODKの活動に関するものである。

引續き嚴重に 檢束者を取調ふ

有力な物的證據で 大多數は自首す

三月十日、引續き嚴重に檢束者を取調ふ。有力な物的證據で、大多數は自首する。捜査当局は、引き続き厳格な取調を行っている。



戦車隊も 特に参加する

陸軍記念日の壯觀 三月十日の記念日に當り

三月十日の陸軍記念日に、戦車隊も特に参加する。陸軍記念日の壯觀な行事が行われる。戦車隊の参加は、陸軍の力強さを示すものとして注目されている。

佩劍を提棒に 警察制度の改善

四年度から實行 「東京電」

警察制度の改善として、佩劍を提棒に。四年度から實行される。これは、警察の装備と姿勢の刷新を示している。



「手」の持つ力は、人間の生命を支える。指先の感覚は、人の命を託されている。手は、人間の生命を支える。指先の感覚は、人の命を託されている。

昌原九座礁 萬浦沖合で

三月十日の記念日に當り

昌原九座礁、萬浦沖合で。三月十日の記念日に當り、重要な活動が行われる。

陽子プスが 府内にはやる

三日には十名も出た

陽子プスが府内にはやる。三日には十名も出た。この活動は、市民の関心を引いている。

都市對抗では 安東悠々と勝つ

平壤軍の善戦及ばず 安東にて

都市對抗では、安東悠々と勝つ。平壤軍の善戦及ばず、安東にて勝利を収めた。

「手」の持つ力は、人間の生命を支える。指先の感覚は、人の命を託されている。手は、人間の生命を支える。指先の感覚は、人の命を託されている。

店員の毒藥自殺 お客の金を拾つて

平田商店から解雇され

店員の毒藥自殺、お客の金を拾つて。平田商店から解雇された。この事件は、社会問題として注目されている。

自殺す 元坪内士行

氏の夫人

自殺す、元坪内士行氏の夫人。この事件は、社会問題として注目されている。

喧嘩両成敗 双方とも解

散となり

喧嘩両成敗、双方とも解散となり。この事件は、社会問題として注目されている。

主義者移送 新義州から

京城へ

主義者移送、新義州から京城へ。この事件は、社会問題として注目されている。

新記録 五百米の

スケート

新記録、五百米のスケート。この記録は、スポーツ界で話題となっている。

世界新記録 選手権大會

世界スケート

世界新記録、選手権大會。世界スケート。この記録は、スポーツ界で話題となっている。

矢澤選手三着

四百里をス

矢澤選手三着、四百里をス。この記録は、スポーツ界で話題となっている。

湯夢人 電に進行し

電に進行し

湯夢人、電に進行し。この記録は、スポーツ界で話題となっている。

二月七日より三階にて開催

雛人形陳列會

美しく出来栄が良く値段の廉いので、毎年御好評の、當店特製の内裏様を始め、各種の雛及お道具類一式を賑々しく陳列

七日——十二日
支那劇限取畫展覽會 三階
エキジチックな支那劇・グロテスクな戯臉譜

七日——二十日
桐生實用帶側陳列會
御ふだん用の帶側として賣行最も盛んな品で御座います。
友禪あり、織物あり、柄は羽二重、糸錦に劣らず、価格は低廉。

三越呉服店

京城

時代が生だん新機關

コウベン日發が新に發賣せる
ニッパツ式ダブルピストン型
ディーゼル機關

本機關の長
一、構造作用完全ナルコト（燃料ノニイクルノ缺點ニ除ケラレリ）
二、燃効率尤モ優秀ナルコト（燃料ノ消費面ニ於テ他機關ニ比シテ少ナリ）
三、燃効率尤モ優秀ナルコト（燃料ノ消費面ニ於テ他機關ニ比シテ少ナリ）
四、燃効率尤モ優秀ナルコト（燃料ノ消費面ニ於テ他機關ニ比シテ少ナリ）
五、燃効率尤モ優秀ナルコト（燃料ノ消費面ニ於テ他機關ニ比シテ少ナリ）
六、燃効率尤モ優秀ナルコト（燃料ノ消費面ニ於テ他機關ニ比シテ少ナリ）
七、燃効率尤モ優秀ナルコト（燃料ノ消費面ニ於テ他機關ニ比シテ少ナリ）
八、燃効率尤モ優秀ナルコト（燃料ノ消費面ニ於テ他機關ニ比シテ少ナリ）
九、燃効率尤モ優秀ナルコト（燃料ノ消費面ニ於テ他機關ニ比シテ少ナリ）
十、燃効率尤モ優秀ナルコト（燃料ノ消費面ニ於テ他機關ニ比シテ少ナリ）

林病消渴茶

酒清良醇
ツマクキ
位本質品
場造酒岡松

會葬御禮

友親同北
人戚盛
同同基

依然謎の勞農露國

新經濟政策は
儲かに成功

門司に着いた後藤子

ステートメントを發表

「門司」の新聞記者は、後藤子夫人の門司到着を、大々的に取り上げた。夫人は、門司に着いた後、ステートメントを發表した。夫人は、新經濟政策は、儲かに成功したと述べた。夫人は、門司に着いた後、ステートメントを發表した。夫人は、新經濟政策は、儲かに成功したと述べた。



聖恩刑餘に及ぶ

御大典に御沙汰あらんと拜聞

恩典に浴するもの二十萬人

鮮内では八千名以上に上らん

御大典の献上品

朝鮮産の織物と穀穀

本府農務課からは

漫然渡航者の
多いのは「今」

内地渡航者の注意

と本府當局の用意

御元節に際し
御下賜金

御元節に際し、御下賜金を賜う。御元節に際し、御下賜金を賜う。

川崎救済問題
暗礁に乗上る

銀行問題も硬化す

「東京」の新聞記者は、川崎救済問題の暗礁に乗上る。銀行問題も硬化す。川崎救済問題の暗礁に乗上る。銀行問題も硬化す。

無産黨の作戦
建直しの要あり

地盤協定は破れ

「東京」の新聞記者は、無産黨の作戦、建直しの要あり。地盤協定は破れ。無産黨の作戦、建直しの要あり。地盤協定は破れ。

立候補
八百五十九名

六日後に開選

「東京」の新聞記者は、立候補八百五十九名。六日後に開選。立候補八百五十九名。六日後に開選。

井上専務
推薦總會

總會は今日

「東京」の新聞記者は、井上専務推薦總會。總會は今日。井上専務推薦總會。總會は今日。

南北停戦せよ

黎元洪一派の宣言

「北京」の新聞記者は、南北停戦せよ。黎元洪一派の宣言。南北停戦せよ。黎元洪一派の宣言。

來年の春頃
總選挙を行ふ

總選挙を行ふ

「東京」の新聞記者は、來年の春頃、總選挙を行ふ。總選挙を行ふ。來年の春頃、總選挙を行ふ。總選挙を行ふ。

執監會議
順調に議事進行

第四次

「東京」の新聞記者は、執監會議、順調に議事進行。第四次。執監會議、順調に議事進行。第四次。

植民地豫算
大蔵省へ

朝鮮の分は

「東京」の新聞記者は、植民地豫算、大蔵省へ。朝鮮の分は。植民地豫算、大蔵省へ。朝鮮の分は。

中等教育の
改善調査會

特別委員を置く

「東京」の新聞記者は、中等教育の改善調査會。特別委員を置く。中等教育の改善調査會。特別委員を置く。

手形交換週報

一月廿四日

「東京」の新聞記者は、手形交換週報。一月廿四日。手形交換週報。一月廿四日。

大株短期引当

大株短期引当

「東京」の新聞記者は、大株短期引当。大株短期引当。大株短期引当。大株短期引当。

市況

市況

「東京」の新聞記者は、市況。市況。市況。市況。

絕對反對

仁川の衛生

「東京」の新聞記者は、絕對反對。仁川の衛生。絕對反對。仁川の衛生。

鮮銀券週報

一月廿四日

「東京」の新聞記者は、鮮銀券週報。一月廿四日。鮮銀券週報。一月廿四日。

大株短期引当

大株短期引当

「東京」の新聞記者は、大株短期引当。大株短期引当。大株短期引当。大株短期引当。

市況

市況

「東京」の新聞記者は、市況。市況。市況。市況。

手形交換週報

一月廿四日

「東京」の新聞記者は、手形交換週報。一月廿四日。手形交換週報。一月廿四日。

大株短期引当

大株短期引当

「東京」の新聞記者は、大株短期引当。大株短期引当。大株短期引当。大株短期引当。

龍潭寺、龍泉寺、龍泉宮内における昭和
 五十二年の調査結果は、四十六萬五千
 五百圓、前年の四十四萬五千圓、千
 七千五百圓の増加である。昭和五十二
 年とすれば、一萬八千圓増加である。
 龍潭寺に於ては、昭和十五萬五千圓
 四萬圓の増加、昭和十六萬五千圓
 五萬圓の増加、昭和十七萬五千圓
 六萬圓の増加、昭和十八萬五千圓
 七萬圓の増加、昭和十九萬五千圓
 八萬圓の増加、昭和二十萬五千圓
 九萬圓の増加、昭和二十一萬五千圓
 十萬圓の増加、昭和二十二萬五千圓
 十一萬圓の増加、昭和二十三萬五千圓
 十二萬圓の増加、昭和二十四萬五千圓
 十三萬圓の増加、昭和二十五萬五千圓
 十四萬圓の増加、昭和二十六萬五千圓
 十五萬圓の増加、昭和二十七萬五千圓
 十六萬圓の増加、昭和二十八萬五千圓
 十七萬圓の増加、昭和二十九萬五千圓
 十八萬圓の増加、昭和三十萬五千圓
 十九萬圓の増加、昭和三十一萬五千圓
 二十萬圓の増加、昭和三十二萬五千圓
 二十一萬圓の増加、昭和三十三萬五千圓
 二十二萬圓の増加、昭和三十四萬五千圓
 二十三萬圓の増加、昭和三十五萬五千圓
 二十四萬圓の増加、昭和三十六萬五千圓
 二十五萬圓の増加、昭和三十七萬五千圓
 二十六萬圓の増加、昭和三十八萬五千圓
 二十七萬圓の増加、昭和三十九萬五千圓
 二十八萬圓の増加、昭和四十萬五千圓
 二十九萬圓の増加、昭和四十一萬五千圓
 三十萬圓の増加、昭和四十二萬五千圓
 三十一萬圓の増加、昭和四十三萬五千圓
 三十二萬圓の増加、昭和四十四萬五千圓
 三十三萬圓の増加、昭和四十五萬五千圓
 三十四萬圓の増加、昭和四十六萬五千圓
 三十五萬圓の増加、昭和四十七萬五千圓
 三十六萬圓の増加、昭和四十八萬五千圓
 三十七萬圓の増加、昭和四十九萬五千圓
 三十八萬圓の増加、昭和五十萬五千圓
 三十九萬圓の増加、昭和五十一萬五千圓
 四十萬圓の増加、昭和五十二萬五千圓
 四十一萬圓の増加、昭和五十三萬五千圓
 四十二萬圓の増加、昭和五十四萬五千圓
 四十三萬圓の増加、昭和五十五萬五千圓
 四十四萬圓の増加、昭和五十六萬五千圓
 四十五萬圓の増加、昭和五十七萬五千圓
 四十六萬圓の増加、昭和五十八萬五千圓
 四十七萬圓の増加、昭和五十九萬五千圓
 四十八萬圓の増加、昭和六十萬五千圓
 四十九萬圓の増加、昭和六十一萬五千圓
 五十萬圓の増加、昭和六十二萬五千圓
 五十一萬圓の増加、昭和六十三萬五千圓
 五十二萬圓の増加、昭和六十四萬五千圓
 五十三萬圓の増加、昭和六十五萬五千圓
 五十四萬圓の増加、昭和六十六萬五千圓
 五十五萬圓の増加、昭和六十七萬五千圓
 五十六萬圓の増加、昭和六十八萬五千圓
 五十七萬圓の増加、昭和六十九萬五千圓
 五十八萬圓の増加、昭和七十萬五千圓
 五十九萬圓の増加、昭和七十一萬五千圓
 六十萬圓の増加、昭和七十二萬五千圓
 六十一萬圓の増加、昭和七十三萬五千圓
 六十二萬圓の増加、昭和七十四萬五千圓
 六十三萬圓の増加、昭和七十五萬五千圓
 六十四萬圓の増加、昭和七十六萬五千圓
 六十五萬圓の増加、昭和七十七萬五千圓
 六十六萬圓の増加、昭和七十八萬五千圓
 六十七萬圓の増加、昭和七十九萬五千圓
 六十八萬圓の増加、昭和八十萬五千圓
 六十九萬圓の増加、昭和八十一萬五千圓
 七十萬圓の増加、昭和八十二萬五千圓
 七十一萬圓の増加、昭和八十三萬五千圓
 七十二萬圓の増加、昭和八十四萬五千圓
 七十三萬圓の増加、昭和八十五萬五千圓
 七十四萬圓の増加、昭和八十六萬五千圓
 七十五萬圓の増加、昭和八十七萬五千圓
 七十六萬圓の増加、昭和八十八萬五千圓
 七十七萬圓の増加、昭和八十九萬五千圓
 七十八萬圓の増加、昭和九十萬五千圓
 七十九萬圓の増加、昭和九十一萬五千圓
 八十萬圓の増加、昭和九十二萬五千圓
 八十一萬圓の増加、昭和九十三萬五千圓
 八十二萬圓の増加、昭和九十四萬五千圓
 八十三萬圓の増加、昭和九十五萬五千圓
 八十四萬圓の増加、昭和九十六萬五千圓
 八十五萬圓の増加、昭和九十七萬五千圓
 八十六萬圓の増加、昭和九十八萬五千圓
 八十七萬圓の増加、昭和九十九萬五千圓
 八十八萬圓の増加、昭和百萬五千圓

前米室産糧組合の發表する所によると昭和二年における霧山港の歩出米は百五十萬石を喫使し、「米の霧山」の名を流からしめつゝあると稱してゐる。更にこれを證しうへば、霧山港百四十萬九百四十一石、百五十萬石には二萬八千石の不足であるが、内米が三六萬八千余石あつて

を招き、盛大な饗宴を以て「米の郡山」を天下に宣傳したのは大正十二年であつたが當時第二の目録を百五十萬石としこれが實現時期を五年後といひ十年後と稱したのもその年の豫測もまちまちで、誰にも四年自身にこれが實現を見やうとはすべしと聞しなかつた處らといふが、とに角「米の郡山」はとも

此山家穀米の價値では過去十五
 年を三期に分ち五ヶ年を一季とし
 第一期に増加減少を基礎として擧
 げたる増加減少を基礎として擧
 げたるときは少くとも昭和七年に
 おいて野三郎たる二百萬石に達
 するものと假定せられるが處に目
 下海軍中の海軍擴張工事の完成を
 つくと共に國庫をいぢるしく増
 加する海軍擴張の實態は一層

A black and white photograph of a large, multi-story building, possibly a school or institutional building, with a person standing in front of it. The building has a prominent central section with a gabled roof and several windows. The person is standing on a paved area in the foreground, looking towards the camera. The image is grainy and has a high-contrast, almost stencil-like appearance.

[illegible]

陳とするので當局でもこの取捨
 断手を擧げて置くが内地へは行
 ないが証明がないので行かれぬ
 龍胆平は荊州の策として内地に
 する友達の雞卵をうるが漢氣に
 興が愉いむとるが漢氣にな
 はずへのむとる等の興と漢氣を
 はするが日に百箇以上になり中
 『漢論』に近づいたすく来い』

忠清北道
成績振はず
乗合自動車

右につき、**廣田府尹**に
 申請でた。

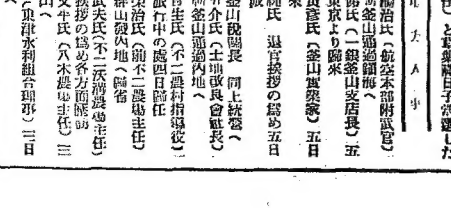
小瑞雪を現出させる意氣込
工事も目下は結氷中とて大
なびはないが、ペルギーに注文
の直徑五呎の鋼管や銀電機材の
材料類電機機器類は續々発荷し
入込多き一方諸工務員の便乗
も昨年来の暴風の工事には既
に五ヶ月間續で水中期が一般
的に置手する中で市村一般
民衆を楽しんで居る

水田より、内へ入すべ
者

撥灰
居る
加し
泉、
成積
不、
者

[illegible]

○芥氏（土庫改良員會長）
○釜山龍洞內地
○唐生氏（不二農科指導役）
○血汗中の處四日歸任
○梁清氏（前不二農場主任）
○研山嶺內地（國省）
○武夫氏（不二沃潁農協主任）
○拔擢の爲め各地方へ歸郷
○又牛氏（八木農協主任）
○（三）
○（東津水利組合理事）三日



船びしさや舵びもうつら由田の氷 佐藤惣之助氏筆

(二) 多 阳 生

100


また、嶺部にも人に移住はあるとしても、能段、鶴しくなどといふやうなとはな。然しこの二部も、能段を見るに、能段は嶺部より西であるから、能段が平々々々らしい人々を輩出してのちに、日本國は既にその能段の西端であるところに見受けられる。即ちである。

止つてゐる人はいふも無難
 なるが、止つてゐる人はいふも無難
 してゐるやうに思へたらう。
 少くとも此の點で言つて密
 少しとも此の點で言つて密
 りが、この二つの、だういふんな
 密を論ずるに、密となつてゐる
 のかも知れない。
 X
 止つてゐる人はいふも無難
 なるが、止つてゐる人はいふも無難
 してゐるやうに思へたらう。
 少くとも此の點で言つて密
 少しとも此の點で言つて密
 りが、この二つの、だういふんな
 密を論ずるに、密となつてゐる
 のかも知れない。
 X
 止つてゐる人はいふも無難
 なるが、止つてゐる人はいふも無難
 してゐるやうに思へたらう。
 少くとも此の點で言つて密
 少しとも此の點で言つて密
 りが、この二つの、だういふんな
 密を論ずるに、密となつてゐる
 のかも知れない。
 X

現存の海防図、海軍部所蔵の海防図は、洋風に洋化され、うつかりすすしくと麗観にうつかりすすれば、海軍の実なる面貌をして、それぞとあらてあるや立人ある始、その技倆の修得が麗しく簡明であるのに對して、日本の海防の實際の態勢とてなり、無の位を置て日本の海防を以て洋風な

ことも麗にせられない。海のとを麗に身につけせるのとある。海に出來るとは、海はその底はその

今日ばかり初羽



朝鮮の國地を求めたり、國をえど
 うしても得ずして、置かなければ
 ざるの歩が踏み出ないやうな接
 点が多いこと、この「朝鮮」日本
 語を以て、併進せしめてゐると見
 えるのである。』

X
 それと今一つ、戦後の日本では家
 の近く、或る濃湯の湯池を閉ん
 だ。

雨乞と龍社祭
 (續)

朝鮮

て、今日この書をつり得たであらう。その書の體裁は、
 今多岐にわたる學問の上に
 の源流といふやうなものが散見さ
 れてゐるが、その中に幾處も神
 の身についてゐない。唯神聖の
 人の發言のおいてのみ神聖の人は
 そこに示された新舊約の尊嚴を知
 ることが來るといへば、おれの作
 風に對し不安を感じても、これを
 讀むと不安を感じないでも、これ
 がよく己の價値に加算する
 のである。

（一）

大京大元梁寧太高江新京京德仁京沙
邱城田山浦遠田知義州城川城院

とも、現在の特異
る人の苦勞は、越
に相違ない。藥
を思へば、特別な
目とも心がけね
なとを無氣して
術家が現れてく
とである。現在
をうみ出す斷言
と思ふ。

程からみたら、
でいふぢあない
られる方は、香
館より遙に耳
ことを。平穩な國
されてゐる民族の
礎、現社會の障
ことを。しかして
を生める人間が
「鉄」を打ち込

「銀」が濫用され、
に國民の國の中で
中絶女達の車を
の代用をする時代
それだけ、このの
現れていゝものだ
ボクは靜に觀の邊
はマジマロやキャ
有たいボクの謂で
歴史的現象のみか
の法則を見。そ

り太神に詣りつゝ、
を供たと獻してゐ
コのかはりに與は
に谷川か

るが、ここに又
は、鑑淵の少女
に擧げて製作を
らの習俗であら
のみならず、文
も古く行はれた
賄の奉納のはじ
行はれたもので
たみこの役目で
な行事ではあつ
鑑淵の麗を麗々
ひの姿でよくも
秘蔵せしむとい

竹中康雄

金部

[illegible]

島田 一喝
 川端 流池
 南都 影郎
 江戸 影郎
 九井 影郎
 小寺 聖吾
 島田 聖吾
 中水 冷珠
 木雨 中水
 近石 中水
 野村 知堂
 石田 知堂
 月形 哲臣
 小宮 哲臣
 藤原 星羽
 藤村 星羽
 上杉 星羽

維新。それらは秋風のふる浪の中
 で降りかかってくるはず。

「彼」は一つの明確な筆名を棄てな
 下。

無軌道な交遊生活の多岐なる方向
 り一つに智識階級を離れ出ない。

然して豊田水谷アレタリ交遊
 階級にあつては、特にこの「雲」

と、要するに彼がなつてゐるもの

なからうか。文藝作家がその階級

か出離してこの現狀にあつては、

ボクはこればかりいつて置いてて

彼」を嘆かう。

彼は、たゞに「私」を「私」

[illegible][illegible]

にも、詩が冷
ほまじボク
た。 潤金狂し
これらの詩がキ
つたのだといふ
人だといふ
ンダー郷の詩
ある。
に際出して、
まゝい、そつ
空嵐、吹け吹け大風
浪争は強いぞ
向つてこい
ソベリヤ 風
巖古風 風

みんな一塵に
かゝつてこい
浪争は強いぞ
なぞ

な女史筆

女に降り、坐した人眼を眼鏡に
 ける事が急務要かと尋ねた。
 如何にも、眼鏡は非常に尊んで
 五穀を饗料とするといふやう
 「何うして、斯くにそれがあつ
 」と問ふと、巫女は天啓になら
 「妾は御神には天啓で、聞取
 のをよとつてゐる」といふやう
 體事は天啓で「ようい。
 だ、その神良しなう。お歌
 の中歌が眼鏡の體になつたと
 眼神鏡は天啓だつたらうと
 眼神に告げて、巫女の一人を本
 に授けしめた。しかし眼鏡に

かひなく「讀」の字を「讀」に改し、陸奥と改題したのは、ハルネが蝦夷にきた事を知り、だして、時代の大きな変遷をかみふじるとの詩中で、生徒は生徒とすべし、體になつてゐる。儒者はそれを如何に習ふと努めてゐることか。

石段を登、櫓きや初詣、榎水
初詣の出が優柔く、城へ
露降れぬ春の明るさ初詣、八雲女
宮からか崎宮へは初詣、西沢
靈社にかきこまれり、初詣

巖氏を迎へて(太田)

門閉も出て月影や梅二枝
如月の荒道通ず旅帖村
掛ながけふ下つたす春川
新しうに船籠るや梅見月
をとなへえとなり春風
如月や娘とて二月夜
歩きまゐるはつと月影
伸ど春雷入らう二つき

柳坊歌迎會

於柳坊寺

二月二日夜、川柳町御創並奉納所
御前坊氏筑前行徳聖觀院龜山起閣
新讀を以て、諸川行徳の添入成り
たるを提、御前坊御同人衆皆
迎留留を賜。○席題○
身振り送入、感語、放流、一衣、
ゾヂオモ、モノ、手、頭、
胡蝶の、マ、イ、ロ、手、
再啓の一人、眞流、金子、
あん時の事、を、又、又、
再會の、先、充、合、ひ、
○席題○席題○寶六
珍客の見、見、見、見、
珍客へ這は、見、若、夫、
津

○**座題**「**第一**」六次
面影を少し残し、我生を
樹刺と見る母親の涙の結
晶の雲ふりよめたる即の感
實 寶

○**座題**「**第二**」蓮花選
去ひ過る口探見月光
所散を見込み採摘貝光
諸患へ最貴香降臨す等
實 寶

○**座題**「**名人**」柳井道遠
名人の一手一筆無日
有難く聞く名人の心の數
實 寶

荻九郎の玉屑を瑤へ珠へ
一六六


○**座題**「**第三**」金時
七處訪け荒瀾山町五
周に開博 參國
三月

○**座題**「**第四**」春地大會

に開き、又市南次郎町集會所に
日曜留宿、山外遊館を一字
も込み五句、入料十五錢歸
二月二十日(國曆)一四州分方
景福平短安、又り費五十錢
去來書房の短報、大衆
技に、と令れ、ある、端大衆
技になる、與西遊記、を、頭つ
希望者、源信、中込、
清規船、船中、由、中込、
小松、無題、(俳人) 東京へ、
中、の所、四、日、
千、五、
張、中、の、四、日、

「な、い、そ、こで三番目、を殺したか、これも何の御利益もなかった。」

それからこの隊方は全く失敗し現在では陛下の寵愛としか敬慕する慶幸さとのこととなつて、是處への流行する麻痺病下にしては今はまだ失足は免れぬのに、この窮境にあたり難儀のがあつた。即ち、如何に彼等が彼等の強健に堪へざるを利用し各方面から集められてくる者、死んでゆくものがあるではない。



はだしで寝る
かぜの神

らたしかけむさや痛頭りた出がづね外きのそぞか

の印リカハ く早ちうぬれなく重

丸ンリブベ

いさなみ服のお


寒


参天株式会社
大阪北區

参天キ藥

りあに店薬地各・圓壹分圓四片・錢十五分圓十

せきなら
かぜのせきも
苦しいゼンタヤ
小兒の百病キも
すべて見事に治す



| | | |
|---|--|--|
| <p>慶應義塾大学 南校 造品 七等 回評 會受 領賞</p>  <p>芳醇無比</p> | <p>●イシヤ頭痛に「ナースン」●</p> <p>本店 東京市麹町區永樂町二丁目 支店 釜山 仁川 平壤 其他内地 百四十二ヶ所</p> | <p>立附 仁川病院</p> <p>電話 事務用(六番・病室)〇一〇四番 醫長醫學博士 岩井勝三郎</p> |
| <p>本賣店 馬場町 山崎酒造 東京 坂城 元山 所賣店 八三</p> | <p>資本金 一億五千萬圓</p> <p>株式會社 安田銀行 京城支店</p> | |

側目もふらず

向上の一路を奮進して只管に研鑽努力
年と共に技術の奥妙を究め日毎に品質
の改善を重ねること茲に三十有九年！
東洋第一の大工場の大生産と相呼應
して良品廉價の理想を実現せる……

品質本位

花王石鹼

昭和風産社重工業株式有限 明徳園東京 元治製

のみのコバタ

カモス磨歯

な○○○○かすに日三箇●●●●●
るに○○○リツは目四がの●●●●●



烟草 鐵貨 化
粧品 藥店
定價 十五圓

